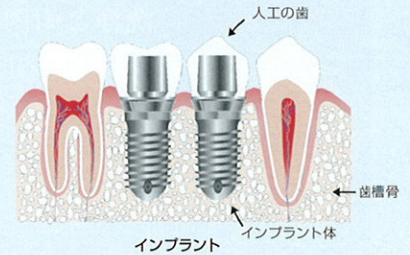
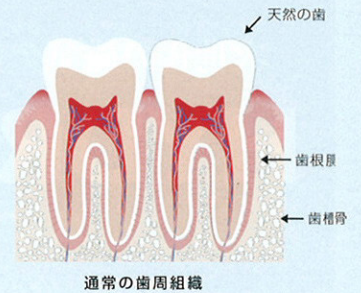


インプラントとは？

歯を失った部分に人工の歯根である「インプラント体」を顎の骨（歯槽骨）に埋め込み、そのインプラント体に「人工の歯」を被せる方法です。
 天然の歯は歯根膜によって歯槽骨に結合されていますが、インプラント体の場合は歯根膜は存在せず直接歯槽骨に埋め込みます。
 埋め込んで数ヶ月すると、歯槽骨にしっかりとインプラント体は結合します。



インプラントと歯周病

人工の歯なので、むし歯にはなりません、インプラントの周りの組織（歯ぐき、歯槽骨）は、天然の組織なのでプラークコントロールを怠ったり、余分な力がかかると歯周病になります。これを「インプラント周囲炎」といいます。

インプラント周囲炎の進行

1. 健康な状態	2. 初期症状	3. 進行した状態
<p>歯ぐき 人工の歯 インプラント体 歯槽骨</p>	<p>歯ぐき 人工の歯 インプラント体 歯槽骨 プラーク 歯石 歯周ポケット 4~5mm</p>	<p>歯ぐき 人工の歯 インプラント体 歯槽骨 プラーク 歯石 歯周ポケット 5~7mm</p>
<p>歯槽骨とインプラント体はしっかりと結合していて、歯ぐきも引き締まっています。歯周ポケットもありません。</p>	<p>細菌が付着したり、歯軋りや噛み締めなどで強い力がかかって直接歯槽骨に力が伝わったりすることで、炎症を起こします。感染により歯ぐきが炎症を起こして腫れると歯周ポケットが深くなります。まだ動揺は認められません。</p>	<p>腫れと共に出血や排膿などを伴い、また骨吸収が起こり動揺も認められるようになります。このようになってしまうと、インプラント体を除去しなければならないこともあります。</p>

インプラント周囲炎の予防のためのプラークコントロール

1. プラークコントロール

- ① ホームケア
 - ・ブラッシングやフロスの活用
 - ・イリゲーション（口腔洗浄器）の活用 [右写真参照]
- ② プロフェッショナルケア
 - ・歯科医院で定期健診を受ける

2. 力のコントロール

- ・特定の場所で強く咬まないようにする。
- ・歯軋りや噛み締めをする場合は、マウスピースなどを装着する。

ハイドロフロス 使用前



右上犬歯部のインプラント周辺に出血、発赤、腫脹が見られます。

ハイドロフロス 使用後



出血はなく、発赤の解消、ステイプリング（健康なコラーゲン線維）が出現し、丈夫な角化歯肉に変化します。



インプラント左側切歯部周辺の発赤と腫脹があります。



発赤と腫脹は解消されました。

奥寺先生からのコメント

インプラントには天然歯のような付着線維はなく、ポケットも深いため、直接骨に細菌の影響を受けます。そこで、ハイドロフロスでの洗浄が必要となり、複雑なインプラントの隅々まで汚れを除去します。

監修：元日本口腔衛生学会 理事・認定医
 (社)日本口腔インプラント学会認定施設長・指導医
 東京形成歯科研究会 会長 医学博士 奥寺 元

